

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	竹内祐介
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>本年度の主な研究活動は、第一に、2010 年 4 月 17 日に行われた社会経済史学会近畿部会での研究発表、第二に、上記研究報告及び、昨年度まで京都大学大学院経済学研究科在籍中に行ってきた研究を総合して、同研究科に博士学位申請論文を提出したことである。（上記 2 つの題目は下記の「業績リスト」を参照）。第一の研究発表は、第二の論文の第一章に相当するため内容報告は割愛し、ここでは、第二の博士学位論文の内容について報告する。</p> <p>京都大学大学院経済学研究科に提出した博士学位申請論文の構成は次の通りである。序章 問題設定・視角・方法／第一章 鉄道敷設と市場形成／第二章 鉄道輸送からみる物流構造・消費市場の展開／第三章 穀物の流通と消費市場の展開／第四章 綿布の流通と消費市場の展開／終章 結論と残された課題。</p> <p>序章では、近年の植民地期朝鮮経済史研究が生産部門におけるマクロ的な経済構造・成長過程に関する研究が進んでいるのに対し、その結果である消費部門の解明が進んでいない点を指摘した上で、それを解明する手法として両者を媒介する流通部門、特に当時の主要な物流手段であった鉄道による商品流通の分析を通して接近することを提起した。第一章では、流通・消費分析の前提として、当時の鉄道沿線の人口分布を検討した。第二章では、鉄道貨物輸送の駅別発着量の地域別分布の検討を通じて、この期間の消費市場の地域的拡大の特徴を検討した。第三章・第四章では、特に人々の生活に関わる穀物・綿布という具体的商品の物流・消費市場の形成過程を検討した。終章では、検討の結果、当時の朝鮮の特徴は、特に 30 年代に半島北部で大きく消費が拡大していた点を本稿の結論として提出した。同論文は審査を経て、2011 年 3 月 23 日に博士（経済学）の学位を授与された。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><論文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦間期朝鮮の綿布消費市場の地域的拡大と鉄道輸送」『日本史研究』575 号、日本史研究会、2010 年 7 月、27-54 頁 ・『植民地期朝鮮の鉄道と商品流通』京都大学大学院経済学研究科博士学位申請論文、2011 年 3 月 <p><報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「植民地期朝鮮における鉄道沿線の人口」、社会経済史学会近畿部会、2010 年 4 月、於：神戸大学 <p><その他－受賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回社会経済史学会学会賞（授与対象研究名「穀物需給をめぐる日本帝国内分業の再編成と植民地朝鮮」、授与団体名：社会経済史学会）、2010 年 6 月 	

